

事実の一つでも、真実は複数あっていいと思う

八坂小学校長 櫻井 洋

これが私の考えです。

私は小学校の時から授業で積極的に挙手をする子ではありませんでした。どちらかというと先生の話や友達の見解を静かに聞いている方が好きな子でした。そんな私に先生はこう言われました（とても子どもおもしろい良い先生でしたが）。

「もっと勇気を出して手を挙げてごらん。」

「（私の心の声）授業って勇気が必要なの？」

先生はこうもおっしゃいました。

「発言して間違ってもいいんだよ。」

「（私の心の声）間違ったら恥をかくのは俺じゃん！」

まあそんなわけで、私にとって授業はいつも「間違う危険を冒しても勇気を出して挙手しようかどうしようか」という葛藤と「先生が求める唯一の正解を答えなければほめられない。」という忖度が入り混じったプレッシャーを伴うものでした。

しかし、大人になってから分かったことですが、現実の世の中は答えが一つでないことが多いですよね。たとえば事実の一つでも、その人の立場や見方の違いによって多様な考えが生じます。人の心の数だけそれぞれの真実が生まれます。そもそも、この世は「大人でさえ何が正しいのか分からない」問題や課題で満ちています。世の中の縮図が学校であり、

現実世界で生きる力を培うのが授業であるならば、先生が求める「正解」を先生へ向けて発言する授業ではなく、友達が抱くそれぞれの真実にじっくり耳を傾け、発言ではなく対話によって探究し、自分自身の考えを深める力を育む授業を重視するべきです。多様な他者を尊重しながら、より良い合意を探る術を身に付けるべきです。

八坂小の全校の目標

「八坂の『や』は『やさしさ』の『や』 やさし

さとは、友達の声を『聴く』こと」

八坂小の先生の合言葉

「教える授業ではなく、学ばせる授業を」

「小学校の頃の自分と同じ子はいないかな？」と気にしながら、八坂小学校の子ども達の明るい笑顔に囲まれ幸せな毎日です。



「がんばれ 八坂っ子」
今日は待ちに待った登校日
2020. 4. 30（木）晴れ